

7月の大型貨物機供給、3%増

■太平洋路線が伸びけん引

航空貨物データ分析の蘭 Rotate によると、今年7月のワイドボディ貨物機による国際貨物供給量は前年同月比約3%増加し、増加量は約10万9000トンだった。欧州連合(EU)は同月、域外から輸入する150ユーロ以下の少額eコマース(EC)貨物の関税免除を撤廃し、品目ごとに3ユーロの暫定関税を導入。こうした逆風下でも供給量はプラスを維持し、太平洋路線の増加が全体の伸びをけん引した(図参照)。

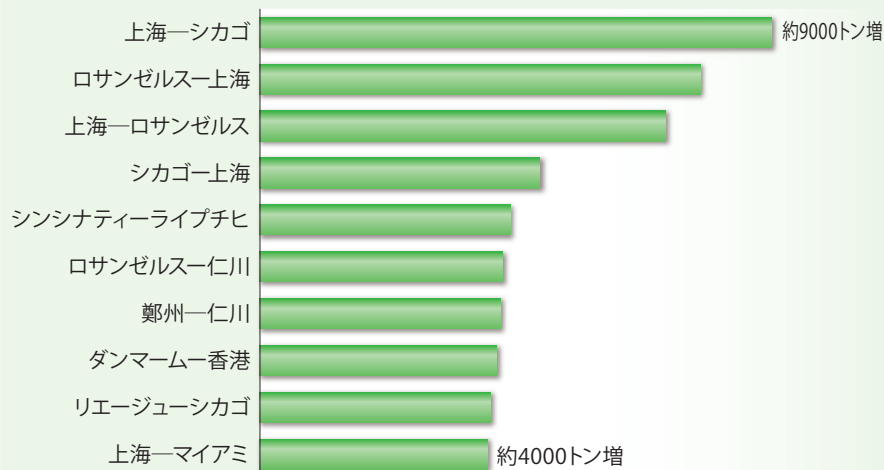
区間別の供給増加量上位10路線のうち、太平洋路線が6路線を占めた。首位は上海—シカゴで、前年同月から約9000トン増加。2位はロサンゼルス—上海、3位は上海—ロサンゼルス、4位はシカゴ—上海と、

米中間路線が上位を占めた。

5位以下はシンシナティーライプチヒ、ロサンゼルス—仁川、鄭州—仁川、ダンマーム—香港、リエージュ—

シカゴ、上海—マイアミの順。10位の上海—マイアミは約4000トン増だった。

路線別ワイドボディ貨物機供給量の増加量上位10路線(2026年7月、前年同月比)



※ワイドボディ貨物機による国際線の重量のみ。アンカレジでのテクニカルストップ(技術着陸)は除外
※重量ベース

(出典=Rotate「Live Capacity」、Rotate分析(2026年8月))